

平成23年度 学校自己評価システムシート（県立春日部東高等学校）

目指す学校像	文武両道の進学校として、人格の形成と進路の実現を目指して、生活指導と部活動の充実により生徒の生きる構えを培うとともに、学習指導と進路指導の充実により学びの構えを育成する。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教科研修、授業評価、公開授業により、授業改善を図るとともに授業規律を高め、生徒一人一人の学力の向上を図る。 2 「総合的な学習の時間」の充実と「生活と学習の記録」を活用し、生徒に学習習慣を身に付けさせ、進路の第一希望実現を図る。 3 本校の教育活動の情報発信を積極的に行い、地域の学校として開かれた学校づくりに取り組む。
------	--

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価								学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標				年 度 評 価（月日現在）				実 施 日 平 成 年 月 日	
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	満 点	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策	学 校 関 係 者 か ら の 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等	
1	全教室の冷房化など学習環境が整備されている。授業は静かに聞いているが、自ら積極的に学習する意欲に欠ける生徒もいる。家庭学習が不足している。教科会の時間を設定することが難しいが、組織的・計画的な学習指導の必要性がある。	授業改善を始めとする学力向上に関する取組	<ol style="list-style-type: none"> ①月1回教科会の研修を行う。 ②校内相互授業公開を実施、積極的に活用する。 ③校内評価システムを確立し、アンケートの実施、集計し、結果をフィードバックする。 ④年次・初任者研修を活用し授業見学する。 	教科研修会：年10回 ・授業が分かると答える生徒の割合 6割 ・進研模試偏差値50以上 1年7割、2年6割 3年5割 ・授業見学：年1回以上					
2	本校入学生の95%以上が大学進学を希望している。ここ数年、大学進学率が80%前後で推移している。組織的・計画的な進路指導を行っている。隙間時間などの活用ができていない生徒が多い。生徒に、もっと早く進路意識に目覚めることが必要である。生徒の自主性、自立力の育成を継続的に行う必要がある。	自立力の向上と進路希望の実現への取組	<ol style="list-style-type: none"> ①「生活と学習の記録」を更に活用し、家庭学習時間を増やす。 ②面談指導を学期に1回実施、充実を図る。 ③進路検討会議等により、進路コンサルティングを充実する。 ④総合的な学習の時間を活用し、自立力の育成を図る。 	・平日の家庭学習時間（隙間時間を含む） 学年+1時間 ・年間皆勤生徒数 各学年 150名 ・部活動加入率 1・2年 100% 3年 90% ・第一志望合格率 50% ・早慶上智理合格20件 ・国公立合格30件					
3	学校の教育活動に、保護者は協力的である。学校説明会等への参加者が減少傾向にある。中学校への働きかけが、不活発になっている。本校受検志願者が減少している。教育活動に関して中学校や中学生等に情報を発信することが必要である。	開かれた学校づくりの取組	<ol style="list-style-type: none"> ①ホームページの更新の分担を明確にし、常に最新の情報を提供する。 ②学校説明会を年5回実施し、内容の充実を図る。 ③学校評議員・評価懇話会を年2回開き、外部からの意見を教育活動に積極的に反映する。 ④中学校訪問の役割分担を明確にし、年2回実施する。 	・ホームページアクセス数 月：3,000回 ・学校説明会参加者数 延べ：4,000名 ・学校評議員・評価懇話会からの提言の実施 ・本校受検志願者の増加数					